

核兵器と軍縮

●なぜ、核兵器を持つのか？

現在核兵器を保有している国は？

(アメリカ・ロシア・イギリス・フランス・中国・インド・パキスタン・北朝鮮)

↓
持っていれば他国から攻撃されにくい (核抑止論)

●軍縮の動き(世界の)

連合国＝常任理事国が中心になり進める

↓
平和にすることでリベンジさせない

(1) 部分的核実験禁止条約 (PTBT) 1963年

地下核実験以外禁止

↓ 一見平和を目指している条約であるが、意図がある

理由：地下核実験ができる国 (米英ソ) だけ優位となる

(2) 核拡散防止条約 (NPT) 1968年

核兵器を持っている国を増やさない

↓ これも一見平和を目指している条約であるが、意図がある

持っている国だけ優位となる (ほかの国は持てない)

* 技術的には原子力発電ができる国は、核兵器の製造は可能なので、IAEAという組織をつくり監視している。

(3) 攻撃用でも守備用でもない核兵器を全廃

中距離核戦力 (INF) 全廃条約 1987年 史上初

(4) 包括的核実験禁止条約 (CTBT) 1996年

全ての核実験禁止 (爆発寸前までは良い)

↓ これも一見平和を目指している条約であるが、意図がある

その核実験ができる国 (常任理事国) だけ優位となる

●米ソ軍縮の動き (今までは世界全体でした ここからは米ソです)

Qなぜ、軍縮したのか？

理由：.米ソ両国とも経済的に苦しくなったから

↓
自国だけ軍縮できず (相手を優位にしてしまう)

そこで A.両国とも 攻撃用ミサイルの持ち数を **制限** (1972年)

戦略兵器制限交渉 別名 SALT

更に B.両国とも 攻撃用ミサイルの持ち数を **減らす** (1991年)

戦略兵器削減交渉 別名 START

●核兵器のない世界づくり

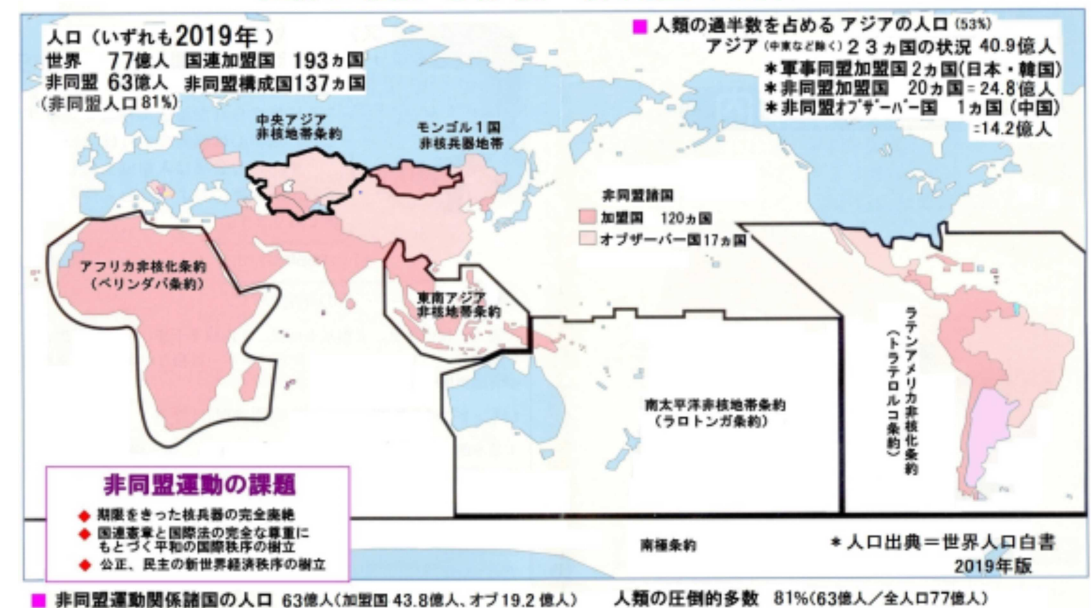
すぐにできるかどうか といえば 不可能

↓
アメリカ・ロシア・イギリスなど、安保理の常任理事国が手離すはずがない
北朝鮮など手放したら・・・攻撃を受ける可能性があるので離さない

↓ ならば
「できる国で核兵器のない世界づくりをやろう」という形で運動がある

中南米・・・トラテロルコ	条約	核兵器のないところを 非核地帯
南太平洋・・・ラロトンガ	条約	
アフリカ・・・ペリンダバ	条約	

世界に広がる非核・非同盟の流れ



●ボランティアグループの活躍

2つの条約

A. 対人地雷全面禁止条約・・・アジア・アフリカなどで子どもが戦乱時の地雷を踏んで、大けがをした事を問題視

B. クラスター爆弾禁止条約・・・戦争に関係のない一般人まで被害を受けることを問題視



対人地雷全面禁止条約にはイギリスチャールズ皇太子のダイアナ妃が大きな影響をあたえた。